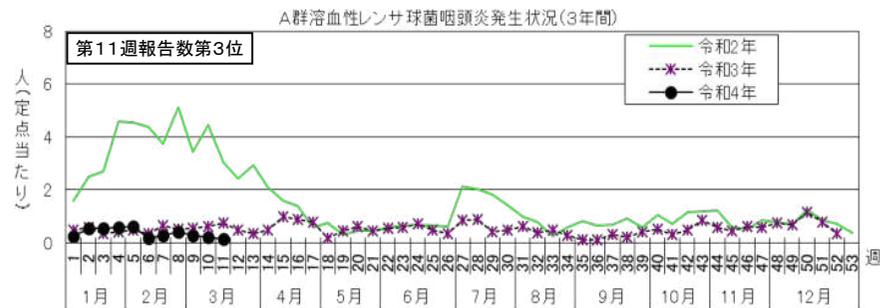
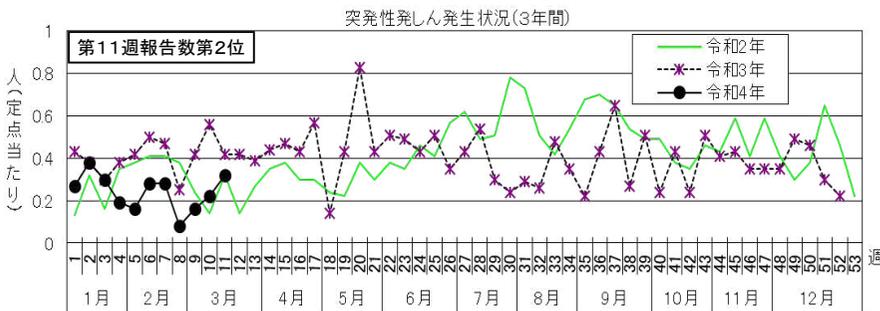
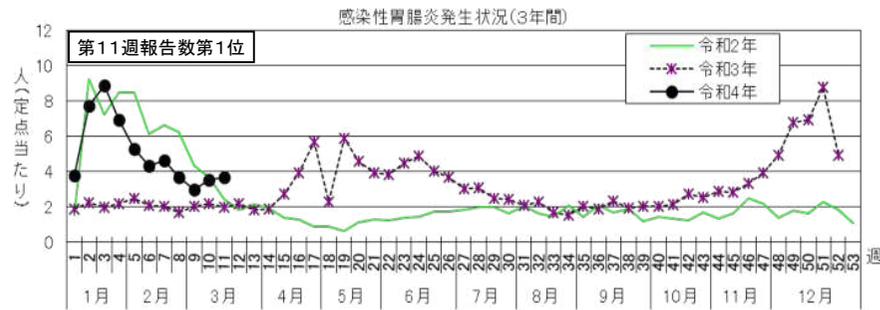


今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】

令和4年3月14日（月）～令和4年3月20日（日）〔令和4年第11週〕の感染症発生状況

第11週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1) 感染性胃腸炎 2) 突発性発しん 3) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎でした。
 感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は3.70人と前週(3.51人)から横ばいで、例年並みのレベルで推移しています。
 突発性発しんの定点当たり患者報告数は0.32人と前週(0.22人)から増加し、例年並みのレベルで推移しています。
 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり患者報告数は0.16人と前週(0.22人)から減少し、例年より低いレベルで推移しています。



知っていますか？～ロタウイルスによる感染性胃腸炎～

ロタウイルスによる胃腸炎は、乳幼児に好発する感染症で、例年は春先に流行がみられます。年齢が低いほど重症化しやすく、脱水やけいれんなどの合併症を引き起こすこともあります。

令和2年以降は、新型コロナウイルス感染症の流行やロタウイルスワクチンの定期接種の導入などにより報告数は大幅に減少しましたが、今後は再び増加する可能性もあります。定期接種の対象のお子さんは、適切な時期に接種を開始し、期間内に完了しておきましょう。

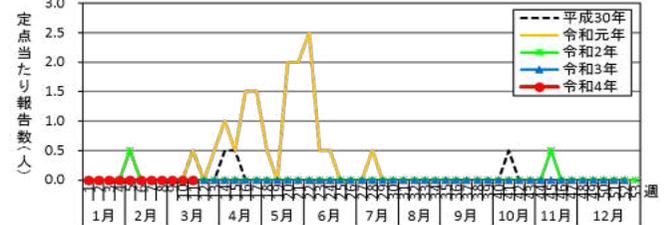
ロタウイルスによる感染性胃腸炎とは？

- 【感染経路】 経口感染
- 【潜伏期間】 2～4日間
- 【主な症状】 下痢、吐き気、嘔吐、発熱、腹痛など
- 【合併症】 脱水、けいれん、肝機能異常など
重症例では、脳症、心筋炎、急性腎不全など
- 【予防接種】 国内では2種類のワクチンが使用されています。
 ✓ロタリックス⇒2回接種*(出生6週0日後から24週0日後)
 ✓ロタテック ⇒3回接種*(出生6週0日後から32週0日後)
 ※2回目以降は27日以上の間隔をあけて接種します。
 ※ワクチンにより接種回数異なるので御注意ください。



けいれんや意識障害などの症状がみられたら、速やかに医療機関を受診しましょう。

川崎市内基幹定点病院におけるロタウイルスによる感染性胃腸炎発生状況-平成30年第1週～令和4年第11週-



ロタウイルスワクチンの接種時期について

腸重積症は腸の一部が隣接する腸管にはまり込む病気で、3か月～2歳くらいの乳幼児に好発します。また、ロタウイルスワクチン接種後1～2週間は腸重積症にかかりやすくなると報告されています。腸重積症の発症を防ぐため、初回接種は出生6週0日後から出生14週6日後までに受けることをお勧めします。